

て花になつたり葉になつたり枝になつたりする芽を大事にして、ふんだり、むしつたりしないやうによく注意する。

手品遊び 會といふのも大げさだけれど、子ども達と楽しい集りをする機會の多いこのごろ、何か簡単な手品をするのも面白いことであらう。觀察とは言へないかも知れないけれど、不思議を感じ、究明し度い氣持を起させる機會といふことでは意味があると思ふ。出来るなら種明しのできるもの、簡単な物理化學の應用のやうなものがよいであらう、よく知られてゐる數例をあげると、小さい紙で大きいものを巻くこと(途中を切らないやうに細く長くきつて)ひもつなぎ空徳利から水を出すこと、コップにうつして水の色を變へること、あぶり出し、玉落し(コップを三四個竝べ、一枚の紙でふたをしておき一つ一つの上に玉をのせておいて紙のふたを早く抜き取つてコップ銘々に玉を入れること)皿まわし等がある。大人の前でする失敗より子ども前でする失敗の方がいけないからよく念を入れて用意してする事にし度い。

談 話

志村 貞子

もう三月といふ月を迎へる。吹く風にも日ざしにも樹々の枝にもどこか春の息吹の感じられる此の頃である。戦ふ祖國の戦ふ國民の一人として此の冬の厳しい寒さを、兵隊さんに負けない元氣で楽しく激刺と凌いで来た、否、勝ち抜いてきた頼もしいよい子たちにとつてもこの月を迎へるよるこびは亦格別である。桃のお

節供がある、國民學校へあがる日が近づいてくる。大きい組(年長組)になる日が一日一日と近くなる、三月である。それは子供達にとつてお正月を待つ喜びに負けない大きな喜びなのである。

此の月の談話にも先づ「三月節供の話」とある。

二月の半頃から色紙で、或は新聞粘土でいろ／＼可愛い、お雛様を皆でたのしく作つて待つたお節供、屏風や櫻や橘も、お雛様にあげるおいしさうな菱餅や御馳走もすつかり出来上つた此の頃である。雛祭の故事について先生が一通り知つておかれる事は必要であるが、お節供の話としてそれをきかせる必要はない。むしろ次の「花子さんとお節供」のやうに童話として扱つた方がよいと思ふ。たゞ雛祭が日本の昔からの行事である事を、お母様もお祖母様も楽しまれたお祭りであることを、お雛様を作りながら、或はまた飾りながら自然のうちに話してきかせたいものである。

「花子さんとお節供」は、倉橋先生が附屬幼稚園の園児たちにお節供の集りの時お話して下さつたお話で幼稚園談話集第二輯にいただくことになつてゐる。先生のお話の御聲、子供達の喜ぶ聲、赤い毛氈、典雅なお雛様すべてが忘れられない楽しい集りである。

「冬から春へ」春を待つ生物、例へば樹の芽、草の芽の童話を創作して生物の春への誓み、喜びを、亦それを育む自然の大きな力を話の中へ織込んで聞かせるのもよいであらう。亦子供達と語りあつてみるのも面白いと思ふ。或子供はお池の水が薄くなつたといふだらう。風が暖かくなつたといふかもしれない。又或子供はもうすぐ國民學校へあがるといふことに春のよるこびを一ばいに感じてゐるかもしれない。また雪合戦をしたいなあ冬遊び

相手を思ひ出す子供もあらう。子供達の心は限りなく豊かである。

「窓ガラスさん」三郎さんに大きな眼と三角のお鼻と圓いお口をかいて頂いた電車の窓ガラスが大喜びでお隣の窓ガラスに電車の中の様子などを面白くお話する。その中に小さいお坊ちゃんに乗つて来て「め、め」といひながら折角の顔をめちや／＼に消してしまつたのでたう／＼お話することが出来なくなつてしまつたといふお話。着想が面白く可愛い／＼お話である。窓ガラスがみた車中の様子は割合簡単に話されてゐるが、話手の意のあるところによつてこゝにいろ／＼の内容を興へらる。例へば小父さんがよんでゐる新聞をのぞいてみると、寒さなものともせず北方を護つていらつしやる兵隊さんの銃をかまへた寫眞が出てゐる。あゝ有難いなあ、御苦勞様だなあと思つたとか、おばあさんに席をゆづつてあげた坊ちゃんの話とか、別に交通道德實踐の記録にする必要はないが、かういふ點に於ても窓ガラスの口をかりて話される内容はなか／＼有効に子供達に働きかけるやうである。

「樫村機」片翼飛行の勇名を謳はれた有名な樫村機の話は童話として創作されたものである。良雄さんがお兄さんと二人で模型飛行機をこしらへて空中戦をして遊んでゐる中に二機が衝突して良雄さんの飛行機は片翼になつてしまふ。良雄さんは樫村機が敵と戦つてゐる様子を考へながら、小さな樫村機を勇ましく飛ばせたといふ筋で、樫村機の烈々たる攻撃精神とその戦闘状況が良雄さんをかき立て活き／＼と描き出されてゐる。お話によつて豊かな空想をたのしむ子供達は亦一面、戦といふきびしい現實を素直に受け入れ心を躍らせ勇み立つ。大東亞戦争以來、緒戦からの壯

烈なる戦闘を、また赫々の戦果を話してきかせる時の——それは多くの場合、童話といふ形式なとる餘裕なく、新聞に報道された〇〇大尉の爆撃行の手記を、或は従軍報道員の報道をそのまゝ言葉を代へる程度で話して来たのであるが——子供達のちつと集中して動かない緊張した眼、さうだよ／＼といふ合槌から喜びに抑へられなくて昂る聲等その生き／＼した共感には此方が胸打たれることしば／＼であつた。戦ふ子等は誠に遅しく第二の兵隊さんとして育つてゐる。機會ある毎に彼等の先輩の示された美しく尊い精神を彼等に語り傳へることは私共の責務であると信ずると共に、その機會を充分に恵まれた有難い大御代に生きる光榮を思はずにはゐられないのである。

「鍵穴のお話」皆が歸つて靜かになつた幼稚園のお部屋の中で、そこにあるいろ／＼な道具が、集つて會をはじめる。大きな黒板さんが司會者になつて「一番小さい方にお話をしたいときませう」といふ提議で、鍵穴さんのお話が始められる。鍵穴さんの話には子供達に親しい幼稚園の四季の様子が面白く語られてゐるし、まだ／＼續くところを、鼠の出現によつて皆一目散にもどの場所にかへつたのでお話も途中でやめになるといふ結び方も面白く、子供達に共感を以て迎へられる話であらう。子供達の身近かな道具等から取材したかういふ種類のお話は、子供達の眼を身邊のものに向けさせ、それらのものに親しむ心を培ひ、ものを大切に扱ふといふ心持を無理なく自然の間に養ふに大きな力があるやうである。この鍵穴の話もそれ／＼の幼稚園の特色を生かした話にされることが希ましいのである。

以上を以て三月の保育案の談話の概略について記したのであるが、同時に、昨年の三月號に始まつた「毎月の保育」も早や一ヶ月を経たことになりこれを以てこの稿も了るので一言附記させていたゞきたい。談話は安村先生と私とで交替に受持たせていたゞくことになつてゐたのであるが、先生の種々の御都合の爲に、甚だ内容の乏しい拙稿を數多く掲載していただくことになつてしまつた。讀者諸姉の爲、誠に申譯なくごに紙上を借りて一言お詫び申上げる次第である。また紙數の都合上、保育案にのせられ談話のすべてをこゝにとりあげて説明し得なかつたことをお許しいただくやうお願ひ申上げる。どんなお話にしても、直接聽き手を對象としてなされる談話に於ては、最初にも記したやうに、先づ第一にその話を自分のものにするのが肝要である。その話への心からの共感を持つ人が、その話の最もよき語り手であるといへよう。かゝる點からも、談話を既成の童話のみから選ばず、保姆自身が幼児達に話してきかせたいと思ふことを中心として自ら進んでお話を創作され、話されることが希ましい。切に御勉強を祈つて筆を擱く。

手 技

及川 ふみ

三月の手技はお雛様の仕事を中心となつて進まれてよい。年少の組と年長の組ではお雛様の製作の上にも自ら區別のあるのは云ふまでもない。

年少組では幼児自身でつくるお雛様はごく／＼簡単なものであり、又ものによつては保姆の手をかりする部分も多いことになるのであらうが、年長組ではお雛様ばかりでなく飾りもの、供物など數の上でも亦個々の製作の上でもやゝ手のかゝるものを作られる様になる。

ごく簡単なお雛様は立雛などを自由畫にかゝせて額式につくる事も一つの方法であるかもしれない。たゞ自由畫として雛をかゝせる時に、お雛様の繪をおきなさいと云ふだけではこちらの期待通りにゆく事は少いかもれない。數日前から保育室などにお雛様の實物や繪などを飾つておいて幼児たちにお雛様を畫く材料の内容を與へておく事を忘れてはならない。又幼稚園内だけでなく家庭や、通園の途中などのおもちゃやの店頭などに容易に見受けられるやうな場合にもお雛様を見る機会を促すことなどの豫備的なことも心掛けておく事である。

自由畫を切りぬかせ、ボールの空箱などを利用して臺紙としてその上に貼り付けて、これに模造紙などで桃の花などをあしらうても簡単な雛の掛物が出来る。

粘土 雛

新聞粘土でつくる雛も簡單で年少組によい。親王、内裏共に略く同じ大きがよいのであるから大體の型と大きを決める爲に、おもちゃのお茶碗などの型を使つて作るとよい。頭に銀杏やお豆などを用ひるのもよいから粘土を型からとり出してすぐに柔かい間に粘土の中に銀杏なり豆なりを深くさしこんでおくとよい。充分に陽にかはかして色をぬる。